

HSK-なんれん

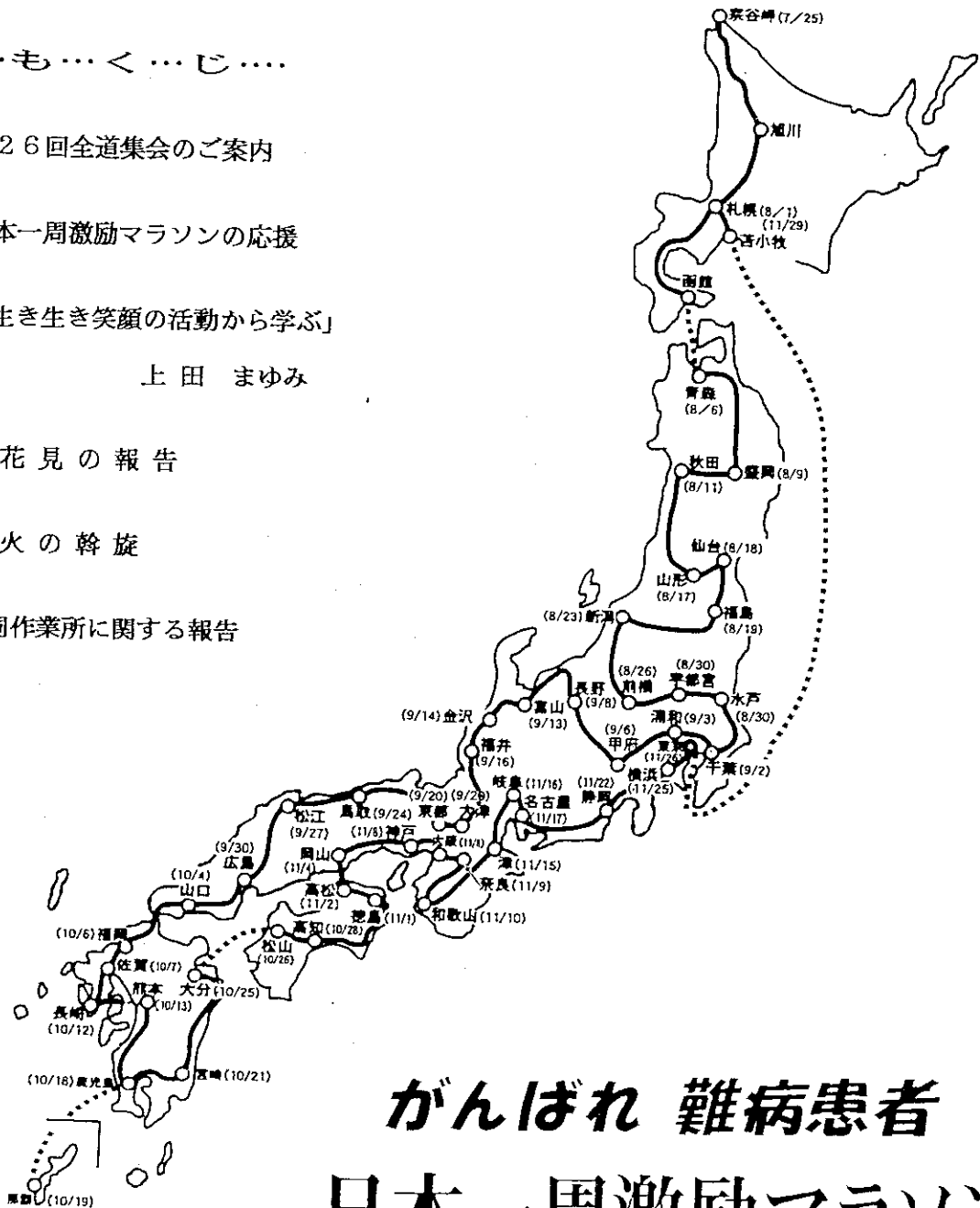
おとふけ

NO 42

昭和48年1月13日第3種郵便物認可
 HSK通巻第328号
 1999年7月10日
 隔月10日発行(1部100円)
 (会費に含まれています)
 編集 財団法人北海道難病連音更支部
 発行 北海道身体障害者団体
 定期刊行物協会(HSK)

……も……く……じ……

- 第26回全道集会のご案内
- 日本一周激励マラソンの応援
- 「生き生き笑顔の活動から学ぶ」
上田 まゆみ
- お花見の報告
- 花火の斡旋
- 共同作業所に関する報告



がんばれ 難病患者
日本一周激励マラソン

第26回 難病患者、障害者と家族の全道集会

のご案内

主催 (財)北海道難病連

日時 1999年8月1日(日) 12:45~15:15

会場 札幌市中央区北2条西7丁目
かでる2・7ホール

分科会等
詳細は
なんれんを
ご覧下さい

音更支部の取り組みと日程

8月1日(日) 2日(月) 泊2日 貸切バス(拓殖バス)にて参加

8月1日(日) 6:30 木野支所出発 → 7:00 音更役場出発
→ 全道集会出席・日本一周激励マラソン出発式
→ 宿泊(札幌グリーンホテル)

8月2日(月) 9:00 グリーンホテル出発 → 野幌百年記念館見学
→ 滝川市にて昼食 → 富良野ラベンダー見学
→ 18:00 音更着の予定

・全道集会参加の時 日本一周マラソンのセツケンを参加者全員で
付けて応援します(セツケン支部が用意します)

・参加費用 ~ バス代 会員、家族、協力会員は無料
宿泊、食事、百年記念館入場料は自己負担
グリーンホテル(シングル8500円、ツイン7500円)

・補助金 会員、家族のみ一人5000円
(部会から補助金が出る方は部会優先で54円を
限度に不足分を補助します)

・ボランティアの方いますので体の不自由な人でも参加出来ます。

参加申し込み×切 7月19日(月)

申し込み先 音更支部事務局

応援グッズ

応援グッズにご協力を

日本一周 激励 マラソン



マラソンランナーの沢本和雄氏が、7月15日に北海道宗谷岬を出発し、沖縄の那覇市を経て11月29日に札幌に帰り着く128日間の「難病患者激励マラソン」を行ないます。総走行距離は実に6,122Km、盛夏に出発して帰って来るのは初冬という苛酷なく走り>を続ける中で、全国47都道府県を訪問し知事さんに要望書を手渡すとともに寄せ書きに激励のサインをしてもらうことを企画しています。

この激励マラソンを行なうための資金活動として①個人寄付の募集 ②応援グッズの販売を行なっています。

ご協力頂ける方は、同封の葉書「がんばれ難病患者日本一周激励マラソンご寄付お申込み書」を利用して各自申し込んでくださるようお願いいたします。

この激励マラソンを行なうための資金活動として①個人寄付の募集 ②応援グッズの販売を行なっています。

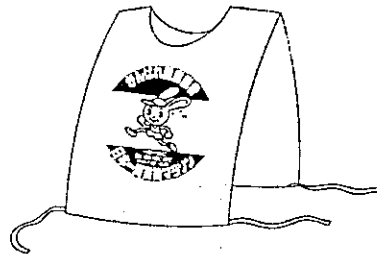
●ランナー澤本画の絵はがき
8枚組 1セット500円



●ランナーTシャツ 1,500円



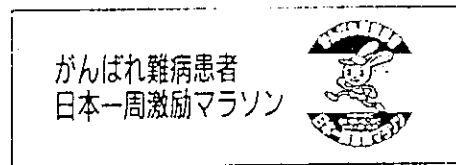
●参加者用セッケン
500円



●応援ジャンパー 3,000円



●応援フラック(手ぬぐい) 500円



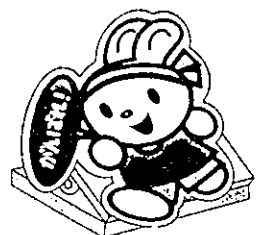
●車用ステッカー200円



●がんばれピンバッジ
300円



●がんばれ携帯電話用ストラップ
800円



●がんばれマグネットクリップ 500円

おしごと

澤本和雄1946年北海道富良野市生れ。70年～92年岩橋印刷(株)にグラフィックデザイナーとして勤務。92年(有)澤本デザイン事務所設立。北海道難病連のポスターやパンフレットの制作を手がけ20年になる。マラソンは30歳から走り始め、現在まで51回のマラソン大会に出場、全て完走。92年サロマ湖100kmウルトラマラソン完走。以後毎年完走。95年サロマ湖100kmウルトラマラソンを完走した翌日から7日間かけて札幌の自宅まで490km完走。96年自宅から帯広・釧路方面へ4日間230kmランニング。この頃からザックを背負って野営しながらのランニング一人旅を始める。97年自宅から日本海沿岸を稚内まで5日間320kmランニング。

98年自宅から北海道難病連の全道集會会場の登別を目指し「難病の患者さんに幾度となく元気づけられた。今度は私が「頑張って」と励ましたい」と思い、2日間130km激励ランで駆けつけた。「四季を通して自然の中をゆっくり気ままに走るのが大好き」。

日本一周 激効マラソン 各地での取り組み

☆道内

- ★稚内支部 稚内～豊富を一緒に走ってくださるとの申し込みがありました。宗谷岬の出発式には稚内支部と稚内市長が出席の予定。
- ★旭川支部 旭川支部では市民に呼びかけて本格的にランナーを募集の予定。市役所前まで走り、市長の歓迎あいさつを予定。
- ★南樺山支部 市民ランナー（道立保健所職員の家族の方）が森から函館まで一緒に走って下さいます。
- ★道東各支部（釧路支部、根室支部、標茶・弟子屈支部、厚岸・浜中支部、中標津支部）と北見支部ではサロマ湖100kmウルトラマラソンで応援。支部旗も目立ちました。

☆道外

- ★青森県 大栄産業の大河原社長を中心に各団体で実行委員会ができる模様。大河原氏は青森から盛岡まで伴走車の運転も。
- ★岩手県 久しぶりに連絡があり、県庁にスモンの会の人たちが同行。
- ★秋田県 集会を予定。山崎洋一事務局長が盛岡から県内を運転。秋田県難病連は実行委員会を開催し、大阪難病連にならい、県内頒布用にパンフレットを製作。折り込み広告方式で広く賛同者と寄付依頼を求めていくことを決めました。
- ★山形県 県難病連で取り組み。
- ★宮城県 県難病連で盛大な出迎えを計画して下さるとのこと。浅野知事、一緒に走りませんか？（誰か伝えて下さいー伊藤）
- ★福島県 県難病連で取り組み。宿泊情報ありがとうございました。
- ★新潟県 実行委員会をつくりたいとのこと。
- ★群馬県 県境の出迎え、見送りします。県と沿道の市に補助金を申請中。群馬難病連は総会を間近に控えています。総会には多数の患者・家族が参加の予定ですので、この際、絵はがきを大量に販売しようとの計画です。
- ★栃木県 県庁へ一緒に行くことになっています。
- ★茨城県 県境出迎え、市民ランナーも伴走。笠間市では日曜にもかかわらず、市をあげての歓迎集会を計画。市長あいさつも。水戸市では県庁で大集会。知事あいさつも予定。県内新聞から取材申し込みもあります。
- ★長野県 実行委員会をたちあげました。県内各地での小集会を予定。
- ★大阪府 大阪難病連は独自のパンフレット制作をすすめています。関西で活躍中の学者・著名人にメッセージを寄せてもらい、また難病センター建設もからめたパンフレット制作です。そして驚くことに大証1部上場企業数千社にイベントの宣伝と寄付を要請することになっています。
- ★和歌山県 11日にかつらぎ町の「道の駅」で伝統ある「千両太鼓」で激励。
- ★滋賀県 地図は実地踏査してカラー写真つきで詳細。便利、楽しい。
- ★愛知県 実地踏査し詳細な地図をつくりました。集会を予定。
- ★愛媛県 取り組み中
- ★高知県 「橋本知事、一緒に走りませんか？」と全国交流集会の時に申し込んだのですが。
- ★香川県 取り組み中です。
- ★鹿児島県 取り組み中
- ★宮崎県 取り組み中
- ★大分県 「冬の銀河」の草伏村牛さん宅を訪問予定。

生き生き笑顔の活動から学ぶ

帯広高等看護学院 保健学科
教務主任 上田 まゆみ

難病連音更支部の皆様こんにちわ。暑さ、寒さが交互に訪れ、体調を合わせるのが大変です。それでも北海道の緑と花の季節、外を歩くのが嬉しい毎日です。

音更支部とのお付き合いは4年程になると思います。わが保健学科の学生にボランティアの機会を与えてくださったのが最初でした。以来3月の卒業シーズンにはリサイクル品を集めたり、全道集会の時のボランティアを募集するなどしています。もっぱら私の活動は学校内でのささやかなものですが、担当していない看護学科の学生が不用品を持ってきてくれたり、それをボランティアの方が学院まで取りに来てくださるなどと新鮮な出会いがあり、楽しんでやらせていただいております。

ここ教務室の棚には北海道難病連の機関紙「なんれん」と「なんれんとかち」「なんれんおとふけ」が大切に保管してあります。毎年4月保健学科に新入生が入学して来ますが、「難病連」という名称は、ほとんどの学生が知りません。学習が進んで5月ごろには「難病連」について知りたいと質問に来ます。そうするとこれらの3つの機関紙の出番なのです。6月には音更支部の穀内事務局長さんから、お花見のボランティアのお誘いをいただきます。今年も3名が参加させていただくことになりました。学生がボランティアを体験して帰って来た時にどんな報告をしてくれるか、これがまた私の楽しみなのです。「楽しかったんですよ!」「皆さんがとても元気なんですよ!」「入浴のお手伝いの時、ちょっと危ない目に合わせてしまいました」「いろいろな人に知ってほしいと広い心で活動してるんですよ」と教えてくれる顔がいつもの教室での表情より格段と輝いているのです。

今やパソコンで世界中の情報を集めることができる情報社会ですが、人が目標や意欲を持って元気に生きるには、単なる情報ではだめなようです。人が一人一人大変な状況を抱えながらも暮らしている姿、人と一緒に楽しんでいる姿、努力している姿に触れなければ、人間は決して自分もイキイキ頑張れないと思うのです。教室では難しいこともたくさん習うのですが、それだけでは意味を持ったものになりません。たくさんの知識よりもなんとかしなくてはという状況に迫られた時に一步を踏み出せる人でなくてはと思います。

ボランティア体験の中からは「車椅子の操作は自信あったんですけど、それは病院という施設の中だったからなんですよ」「全道集会に行く途中、車椅子用のトイレが少なく大変なんです」などの問題も発見させてくれています。一年間の学習を終えて卒業を迎える時には、一段とやさしく逞しい精神を持って社会に踏み出してくれることをめざして、日々私も努力していこうと思います。

皆さんの活動が自主的なものであることの素晴らしさ、困難に立ち向かう力強さ、人と手を繋ぐ暖かさ、そして輝く笑顔を通して、教室では学べないものをこれからも教えていただければと思っております。ますますの音更支部のご発展を祈念しております。

腹に響いた今年の「お花見」

一参加者より感謝をこめて

初めてお見かけする方、昨年暮れのクリスマス・パーティーにおられた方、よくお会いする方などにぎやかな顔ぶれが、音更市街から士幌寄りの国道沿い（音更町字東和西3線71）帯広リゾートホテルの正面から入ってきます。

前日とはうって変わって霧雨の降る肌寒い6月20日（日）の11時、受付を終わった方々はそれぞれ小さい輪になって、懐かしそうに話し込んでいます。ベーチェット・リュウマチ・バージャー・ダウン症・橋本病などの患者や家族に混じって、難病連の行事によくボランティアとして参加する大谷短大生の若々しい元気な顔も見えます。

まもなく控室と会場を仕切っていた戸が外されました。スキヤキの小さい鍋や天ぷら・刺し身などが溢れるほどテーブルに並んだ会場がみわたせます。その頃には入浴をすませ、身体のはてりを冷まそうと手で顔をおいでいる方もいます。

12時から会食がはじまりました。

小竹副支部長から「花より団子～」の短いご挨拶がありました。お人柄を偲ばせる温かいものでした。ビール・コーラ・ウーロン茶・ワインと飲み物も豊富です。食べるほどに飲むほどに、庭の畑のことから冬道のヒヤッとしたことまで話題はさまざまです。

車椅子や視覚障害の方々にはボランティアの帯広高看保健学科生がついて細かい気配りをみせています。

小竹副支部長の奥さんが和服姿で踊りを披露されました。続いて帯広和太鼓研究会の皆さんによる和太鼓の演奏です。太鼓の音は腹にズシリと響きました。カラオケが始まると、いきなりイントロが流れたり、リクエストした人が間に合わなかったりのハプニングに笑いが弾けました。

大きな皿に切りわけた西瓜もでてきました。入浴がままならない方にはスタッフが2人がかりで応援しました。

こうして時間は少し延長しましたが、今年の「お花見」は和やかな雰囲気のうち幕を閉じました。日頃の闘病や看護の苦しみを和らげてくれるこうした行事に深く感謝します。

スタッフ及びボランティアの方々、本当にお疲れさまでした。

（参加者は合わせて48名ということでした）

FANTASTIC



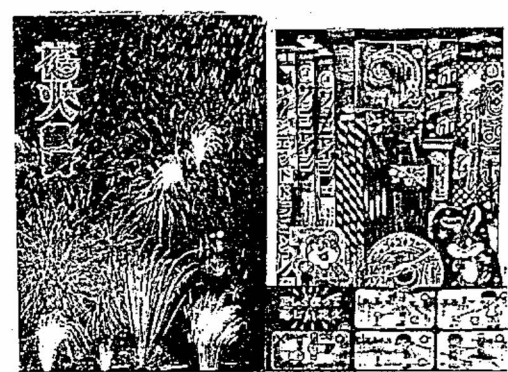
みんなまで遊べる楽しい花火
●夏休み花火特集●

●パリパリの音と、きらめく光、からんころんと下は、夕暮れ時が来たら花火の宴の始まり。
線香花火、火をつけて、赤い玉が落ちないよ、うに、そのおとと……。ほら、この香り。
なんだ、楽しい思い出がよみがえって来るよ。
おとと……。ほら、この香り。
おとと……。ほら、この香り。
おとと……。ほら、この香り。

申し込み締切
七月三十一日



パラシュート、打上、五重塔、フンスイ、花車等々、楽しいものばかり。海や山へのキャンプに持って行くのに最適なセットです。
ジャンボセット 特価¥2,500



打上げ花火も入ってる高学年にも向くセットです。
銀河セット 特価¥1,200

消費税ナシ



ススキ・スパークル・センコ花火などが入ってる低学年向き
緑先でも遊べる楽しいセットです。
ちようちゃんホット 特価¥500

今年の夏の思い出作り

共同作業所に関する報告

今年度の総会で決議された共同作業所設立に向けての運動として、音更町へ「地域共同作業所設立に関する要望書」(本号に掲載)と現在のリサイクルバザール品の作業内容や、今後の作業内容等を盛り込んだ「計画書」を提出しました。これからは、この要望に添った交渉を町と行っていきたいと思います。経過は随時、会報にて報告します。

会員、家族の方で活動に協力して下さる人募集中

内容

- ・ バザール品の仕分け作業
毎週 水曜・金曜 13:00~16:00 どんぐりの家
交通費程度です。
 - ・ 福祉の店「どんぐり」の売り子
毎週 土曜・日曜 10:00~14:00 どんぐりの家隣
昼食、交通費です。
 - ・ 町青空市出店の準備、売り子、片づけ
10月迄 毎月才2、才4日曜 7:30~10:00 道の駅
交通費程度です。
- その他 会報作り等

音更町保健婦さん、帯広保健所保健婦さんとの懇談会ありす

主催 (財)北海道難病連音更支部

日時 7月11日(日) 13:00~15:00

会場 音更町保健センター

音更町保健婦さん 3名 帯広保健所保健婦さん 1名
出席之れす。

平成11年5月20日

音更町
町長 山口武敏 様

(財)北海道難病連 音更支部
支部長 菅原真



地域共同作業所設立に関する要望書

平素より難病連音更支部の活動にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。難病連音更支部は、会員の互助と交流を目的に平成3年に設立し、会員も当初の63名から110名に増加しております。

昨今の難病を取り巻く情勢は厳しく、昨年8月には難病医療費の一部患者負担が導入され、私たちは経済的、肉体的に厳しい療養生活を強いられております。

このような状況の中で当支部は会員の交流とリハビリ、社会復帰等を目指してリサイクルバザーに取り組んでおります。これは家庭等の不要品に会員が付加価値を加えて広く町民に提供するもので、今年で7年目になります。

しかし、そのためには不要品の保管場所、付加価値を加える作業場所、製品の陳列場所などが必要であります。現在、音更町宝来の「どんぐりの家」で作業等を行っていますが狭小で活動に支障をきたしております。

このため下記内容の作業可能な「地域共同作業所」の早期設立を強く要望する次第であります。

今後とも音更町の難病患者、障害者、高齢者が、安心して生きがいを持って生活できる「まちづくり」にご精励下さいますようお願い申し上げます。

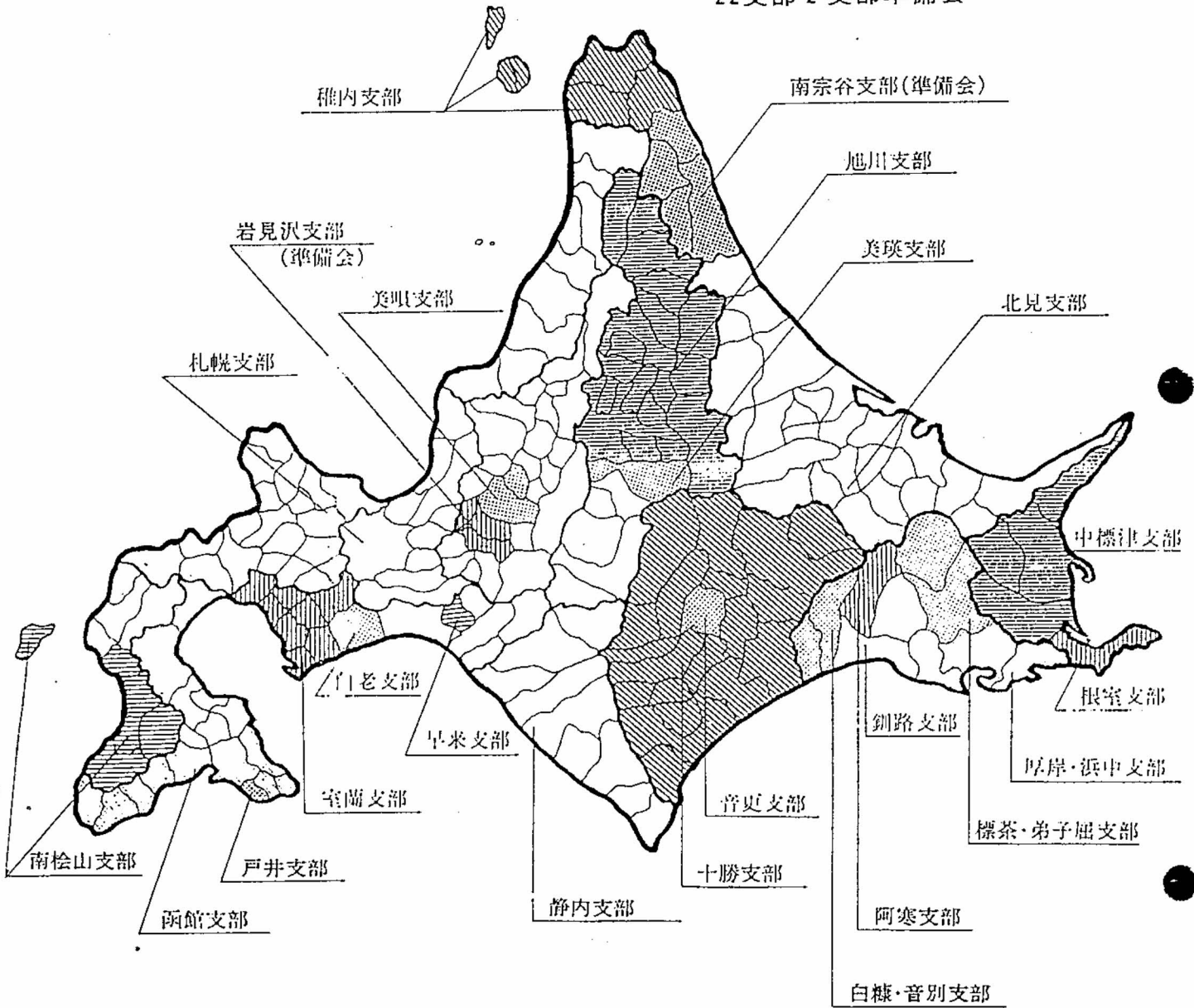
記

作業内容

- ・バザー用品の保管
- ・付加価値化作業
 - (自転車、家具、電化製品等の修理点検整備)
 - (紙袋作成、ボタン取り、袋詰め、値札付け)
- ・北海道難病連の福祉機器販売、相談
- ・製品の販売(福祉の店)

北海道難病連支部組織地図 (1997年5月現在)

22支部 2支部準備会



— H S K・なんれん おとふけ —

編集人 (財)北海道難病連音更支部 篠内 さかえ
音更町 TEL・FAX-

昭和48年1月13日第3種郵便物認可
1999年7月10日発行 通巻328号
発行人 北海道身体障害者団体定期刊行物協会 知川 久美子
札幌市西区八軒8条東5丁目4-18